

京都大学運動機能セミナー 2013

●日時・講師・テーマ・申し込み締切日

- ① 2013 年 3 月 24 日（日）10：00～16：00（受付 9:30～）
大畑 光司（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 講師）
「歩行のバイオメカニクスからみたトレーニング ～脳卒中後片麻痺患者を中心に～」
（申し込み締切日：2013 年 2 月 24 日）
- ② 2013 年 4 月 14 日（日）10：00～16：00（受付 9:30～）
建内 宏重（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 助教）
「股関節運動機能障害に対する評価・治療のエッセンス」
（申し込み締切日：2013 年 3 月 14 日）
- ③ 2013 年 5 月 12 日（日）10：00～16：00（受付 9:30～）
市橋 則明（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 教授）
「筋の運動学とトレーニング」
（申し込み締切日：2013 年 4 月 12 日）
- ④ 2013 年 6 月 9 日（日）10：00～16：00（受付 9:30～）
池添 冬芽（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 講師）
「高齢者の運動機能障害に対する評価とトレーニング」
（申し込み締切日：2013 年 5 月 9 日）
- ⑤ 2013 年 6 月 30 日（日）10：00～16：00（受付 9:30～）
大畑 光司（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 講師）
「脳性麻痺に対するトレーニングの考え方とその方法」
（申し込み締切日：2013 年 5 月 30 日）
- ⑥ 2013 年 7 月 21 日（日）10：00～16：00（受付 9:30～）
伊藤 浩充（甲南女子大学看護リハビリテーション学部理学療法学科 教授）
「足関節の運動学と機能評価」
（申し込み締切日：2013 年 6 月 21 日）
- ⑦ 2013 年 8 月 25 日（日）10：00～16：00（受付 9:30～）
南角 学（京都大学医学部附属病院リハビリテーション部技師長）
「股関節疾患に対するトレーニング方法と ADL 指導の理論的背景」
（申し込み締切日：2013 年 7 月 25 日）

⑧ 2013 年 9 月 29 日 10 : 00～16 : 00 (受付 9:30～)

長谷川 聡 (京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 助教)

「呼吸不全例に対するリハビリテーションにおける評価とトレーニングの実際」

(申し込み締切日 : 2013 年 8 月 29 日)

⑨ 2013 年 10 月 20 日 (日) 10 : 00～16 : 00 (受付 9:30～)

市橋 則明 (京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 教授)

「脳卒中片麻痺の理学療法のエビデンスと歩行トレーニングの理論と実際」

(申し込み締切日 : 2013 年 9 月 20 日)

⑩ 2013 年 11 月 17 日 (日) 10 : 00～16 : 00 (受付 9:30～)

対馬 栄輝 (弘前大学大学院保健学研究科 准教授)

「股・膝関節疾患に対する理学療法の考え方と実際」

(申し込み締切日 : 2013 年 10 月 17 日)

⑪ 2013 年 12 月 8 日 (日) 10 : 00～16 : 00

建内 宏重 (京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 助教)

「姿勢制御からみた運動器理学療法」

(申し込み締切日 : 2013 年 11 月 8 日)

●主催

京都大学運動機能研究会

●会場

京都大学医学部人間健康科学科

(〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53)

●受講費

各 7,000 円 (資料代含む)

●申し込み方法

下記 1～6 項目をもれなく明記し、メールにてお申し込みください。

1. 受講希望のテーマ
2. 氏名 (フリガナ)
3. 所属 (勤務先名称、勤務先住所、電話番号)

4. メールアドレス（受講可否の連絡をしますので、病院のアドレスなど共通のアドレスではなく、必ず連絡の取れる個人のアドレスにしてください。）
5. 職種
6. 経験年数（ 年目）

●申込先 e-mail : kyoto.undoukinou@gmail.com

●応募締め切り：各テーマの日時の1ヶ月前

*応募締めきり日以降に抽選を行い、受講可否についてメールでご連絡いたします。

*応募締め切り日から1週間を過ぎても受講可否の連絡がメールにて届かない場合は、上記申込み先にお問い合わせください。

*複数のテーマを申し込みする場合、1テーマにつき1通のメールでテーマごとに分けて応募してください。

●各テーマの内容

①「歩行のバイオメカニクスからみたトレーニング ～脳卒中後片麻痺患者を中心に～」

歩行に必要な機能とはなんだろうか。片麻痺歩行で生じる問題は何だろうか。このような問いに対して、バイオメカニクスの観点から見つめなおすことは、歩行改善を促す理学療法に対して有用な知見を与えてくれると考える。本講では、バイオメカニクスの視点から考えた場合の片麻痺歩行の筋電図学的特徴（同時収縮、筋活動低下、タイミングの問題）と運動学的特徴（内反、反張膝、膝屈曲など）の関係を論じることと、それぞれに対する理学療法で進めるべきポイントについて整理し、歩行改善のための理学療法のあり方について議論したいと考える。

②「股関節運動機能障害に対する評価・治療のエッセンス」

股関節の機能障害は下肢や脊柱における疾患の根源的な問題となっていることが多い。股関節の機能障害を診るためには、股関節の基本的適合面、関節のポジションと筋の作用、関節周囲筋のバランスなど、股関節局所の詳細な運動学とその病態について、また、股関節と脊柱や足関節など他の身体部位との関連性について理解することが重要である。具体的な評価・治療方法の紹介を交えながら、股関節の奥深さを知るセミナーとしたい。

③「筋の運動学とトレーニング」

解剖学や運動学の教科書に書かれている筋の作用は、覚えても意味がない。なぜなら関節の角度が変化すれば作用も変化するからである。本講演では、肩関節周囲筋と股関節周囲筋を中心に、1. 筋の運動学的作用（関節角度が変化したときにどのように作用が変化するのか）に関して詳しく説明する。さらに、2. 筋機能を決定する要因、3. 固定筋の重要性、4. 筋電図学的研究や運動学的研究から考えた筋の選択的トレーニング、4. ストレッチングに関する最新の理論的根拠と実際などについて述べる予定である。

④「高齢者の運動機能障害に対する評価とトレーニング」

加齢により筋機能、姿勢制御能力、持久力、敏捷能力といった様々な運動機能が低下する。本セミナーではこのような加齢による運動機能の変化について概説し、信頼性・妥当性が高いとされている高齢者の運動機能評価法、介護予防の視点からみた運動機能の基準値、転倒リスクのスクリーニングとして有効な評価法などについて述べる。また、高齢者に対する運動療法の基礎理論および運動効果のエビデンス、具体的なトレーニングの実践方法について紹介する。以上の内容について、高齢者研究の最新の知見を踏まえながら解説し、高齢者に質の高い運動療法を提供できるようになることを目指す。

⑤「脳性麻痺に対するトレーニングの考え方とその方法」

脳性麻痺児の理学療法について、我々はどうのように考えるべきであろうか。神経、筋、関節などの身体構造に関する問題、姿勢や歩行などの活動に関する問題、さらに、親子関係や学校生活などの参加の問題など、その障害構造は多岐にわたる。そのなかで、我々にとって指針となるべき方向性をどのように示すべきであろうか。本講演では、家族中心のアプローチと ICF の考え方を背景に、身体構造における生理学的背景と活動についてのバイオメカニクスの背景を中心にトレーニングの方向性を示し、具体的なアプローチ方法について演習することを目的としている。また同時に、参加についての問題を社会心理学的背景から議論を試みたいと考える。

⑥「足関節の運動学と機能評価」

足部・足関節は荷重を受けて衝撃を吸収する役割と身体運動を推進する役割がある。特に足部は骨が小さく、関節が多く、関節運動範囲が狭いため、運動・動作時の機能的役割は動作観察だけでは把握できないこともよくある。足部・足関節の機能障害を診るためには、足部・足関節の基本的構造と関節運動軸をまず理解する必要がある。そして、機能評価をする際には、関節軸と筋腱の走行から筋の作用効率と関節運動の特徴を把握し、歩行などの動作時の代償性などを予測しながら、局所の病態運動学について考察する必要がある。これらについて、理解を深めるようなセミナーとしたい。

⑦「股関節疾患に対するトレーニング方法と ADL 指導の理論的背景」

股関節疾患に対して効果的な理学療法を展開していくには、股関節機能の評価はもちろんのこと股関節機能低下に起因する脊椎や膝関節の機能障害および歩行障害に着目した客観的な評価が必要となる。また、人工股関節置換術後では、術前や術後早期から術後長期的な視点での機能回復を想定しながら、適切でより効率的なトレーニングや ADL 指導を実践していくことが重要となる。本講演では、人工股関節置換術の症例を中心に当院で解析したデータを紹介しながら、臨床の場面ですぐに実践できる評価やトレーニング方法とその理論的背景について述べていきたい。

⑧「呼吸不全例に対するリハビリテーションにおける評価とトレーニングの実際」

呼吸不全とは、単に呼吸器疾患にだけにみられる病態ではなく、高齢者、外科手術後、様々な内部疾患において認められる病態で、運動療法を進める上での大きな阻害因子となる。本セミナーではリハビリテーションを進める上で問題となる呼吸不全という病態を知ることから始

める。そして急性呼吸不全、慢性呼吸不全を認める症例に対してリハビリテーションを実施するために必要な評価を確認し、トレーニングの理論と実際、最新のトピックスを紹介したい。呼吸不全に対するリハビリテーションの対象者は幅広いと考えられるため、どのような現場でも実践できるアセスメントとトレーニングの習得を目標とする。

⑨「脳卒中片麻痺の理学療法のエビデンスと歩行トレーニングの理論と実際」

本講演では、下記の4つの項目に関して述べ、重度の片麻痺患者が歩行を獲得するための歩行トレーニング法をなるべく具体的に患者のビデオを供覧しながら詳しく説明する予定である。

1. 脳卒中片麻痺に対するアプローチ法、トレーニング強度、歩行トレーニング、筋力トレーニング等のエビデンス。
2. 体重免荷歩行トレーニングの理論と実際。
3. 特に重度の麻痺を持つ患者の歩行障害に対する歩行トレーニングの理論と実際。
4. 歩行時に麻痺側が振り出せない場合、麻痺側の支持ができない場合、麻痺側がロッキングする場合等ケース別理学療法の実際。

⑩「股・膝関節疾患に対する理学療法の考え方と実際」

理学療法において股・膝関節疾患を対象とする機会は多い。理学療法では従来から、曲がらない関節は曲げる、筋力低下があれば増強する、疼痛があれば緩和を試みるという対処に留まっているといっても過言では無かろう。股・膝関節疾患に限ったことではないが、整形外科的疾患に対する理学療法をどのように考えるべきかは、これからの重要な課題となる。1. 関節運動の基礎知識、2. 理学療法評価の再考、3. 臨床推論の重要性、4. 治療への展開をもとにして、関節疾患に対する理学療法を見なおすきっかけとなれば幸いである。

⑪「姿勢制御からみた運動器理学療法」

運動器の機能障害は、関節構成体や関節周囲の軟部組織に対する不適切な力学的ストレスが問題の根源となることが多い。特に脊柱や下肢関節の機能障害においては、荷重位での姿勢やその制御方法が直接的に関節周囲組織の負荷に反映され、障害につながる。したがって、関節局所の機能解剖と全身的な姿勢および姿勢制御とを考え合わせて障害像を紐解くことが重要となる。本セミナーでは、明らかにされてきているヒトの姿勢制御メカニズムから理学療法の臨床において必要不可欠な部分について解説し、姿勢制御と脊柱、下肢関節および肩関節の障害との関わりについて、そして、姿勢制御へのアプローチによる運動器機能障害の改善について焦点を当て、議論を展開したい。

●問い合わせ先

京都大学運動機能研究会 事務局

池添 冬芽（京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻）

e-mail : kyoto.undoukinou@gmail.com